

OPTOCLOUD

EDU

限界を超えた
品質管理



MARPOSS

OPTOCLOUD EDUへようこそ

マーポスOptoCloud EDU(電動ユニット)は、電気自動車産業とのかつてない品質保証プロセスを対象に設計された、最新世代の3D精密検査ソリューションです。

OptoCloud EDUは、複雑な形状のワークの3Dモデルを再構成するとともに測定やビジョン検査などのタスクを自動で実行するように設計されており、従来の接触式測定装置では実行困難または不可能な作業を、1分足らずで行います。

例えば、OptoCloud EDUは、モーターステータの240の電気接点をわずか30秒で完全に検証できます。これは、従来の接触式3Dシステムに比べて100倍の速さに匹敵します。

OptoCloud EDUは、非常に高速であるため、手動とロボットローディングの両方で生産ラインでの品質管理に最適なソリューションになっています。

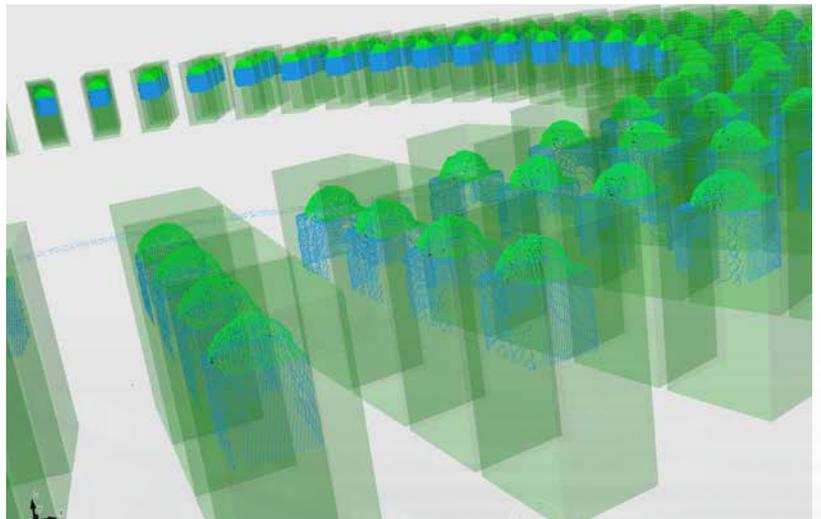
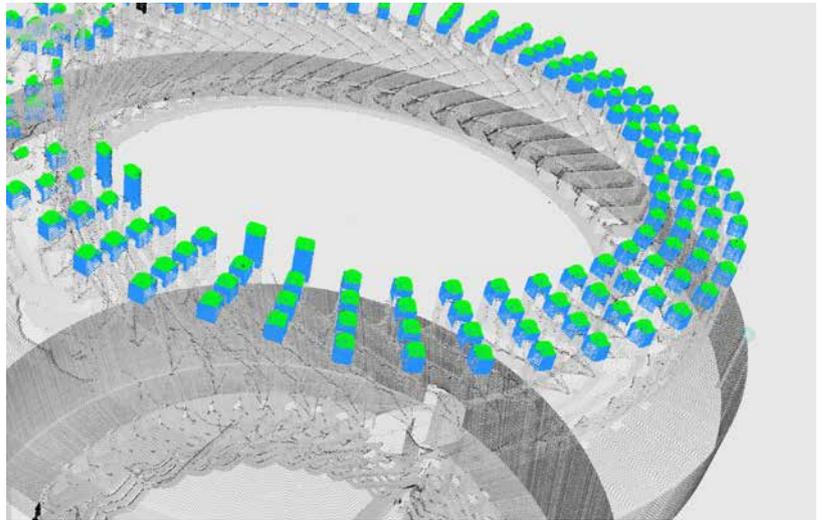
性能成立の公式： (3Dレーザーヘッド)4+ 3D接触式センサー

複雑で構造化された表面の3D再構成は、複数のレーザーヘッドによって行われ、ワークを360°高速回転させながら部品の点群(ポイントクラウド)を生成します。

点群データ(ポイントクラウド)は各種のレーザーヘッドによって作成し、空間的な多方向性を利用しながら1つの3D再構成に結合されます。最後のステップとして、マーポスのソフトウェアがデータセットを処理し、必要な測定や外観検査のタスクを実行します。

技術仕様

最大部品直径	300 mm
最大部品高さ	300 mm
最大部品重量	60 kg
製品寸法(幅x奥行x高さ mm)	1200x1304x2304



レーザー位置の電子制御

レーザーヘッドは、3D取得のために適切な距離にレーザーを配置するよう設計された精密な可動軸上に統合されています。この機能性により、OptoCloud EDUは、長さが異なる部品など、各種部品を検査できるではありません。さらに、測定サイクル中にレーザーを移動させることで、垂直方向にワーク全体を検査することもできます。

常に適切に保護される レーザーヘッド

部品のロード/アンロード操作は重要な場合がありますが、OptoCloud EDUでは必ずしもそうではありません。

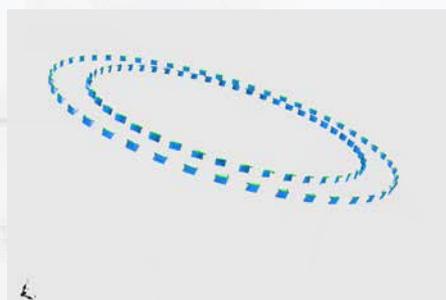
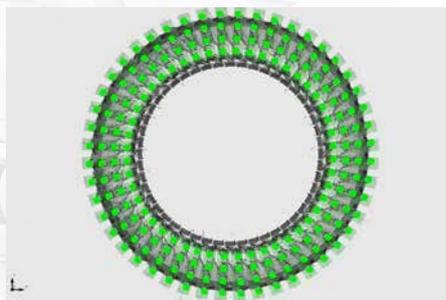
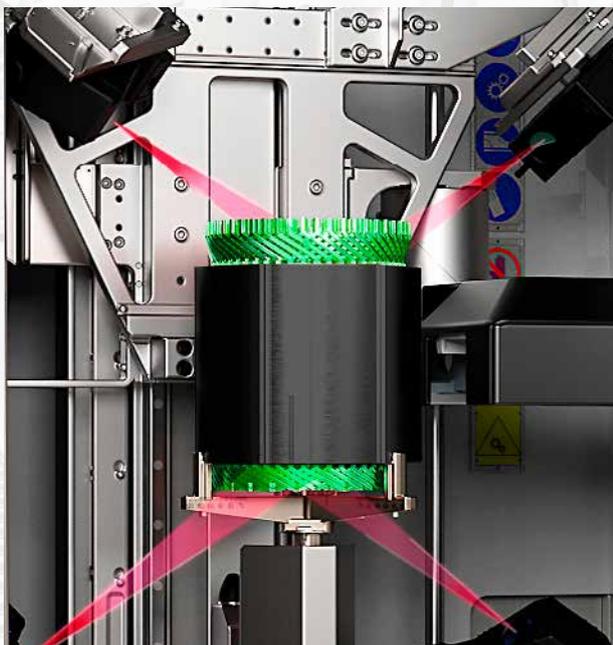
Z軸によって、レーザーヘッドは自動的にハンドリング領域の外に移動し、ワークのハンドリング用に広いスペースを確保し、ハンドリングミスによりセンサーを破損するリスクをなくすることができます。



本質的に容易な品質管理

OptoCloud EDUは、効果的なソフトウェアパッケージを搭載しており、点群データ(ポイントクラウド)を3D再構成し、さらに最後のステップとして直感的なグラフ形式に仕上げることができます。ラインオペレーターは、自動検査の結果を画像で簡単に確認し、目的の詳細レベルまで検証を実施できます。

品質管理に最適ですが、それだけではありません。OptoCloud EDUの複数のレーザーは、非常に高いレベルの空間分解能を持つ点群データ(ポイントクラウド)を生成し、設計レビューと最終的なプロジェクト検証のための強力なデータセットである詳細なデータを取り込みます。





MARPOSS

各国の住所一覧は、マーボスの公式Webサイトをご覧ください。

Edition 04/2022 お断りなく仕様の変更を行うことがあります。©Copyright 2022 すべての著作権はMARPOSS S.p.A. (Italy) にあります。
MARPOSS、ロゴおよびマーボス製品の名称/記号などは米国および各国におけるマーボスの登録商標あるいは商標です。また、本カタログ内に第三者の商標
ならびに登録商標が記載されている場合、その権利は各社のものです。

MARPOSSの品質、環境、安全の統合マネジメントシステムは、ISO 9001、ISO 14001およびOHSAS 18001の認証を取得しています。